

県内ものづくり企業の早期復興を支援する溶接技術高度化事業

(平成 29 年度東日本大震災復興推進基金活用事業)

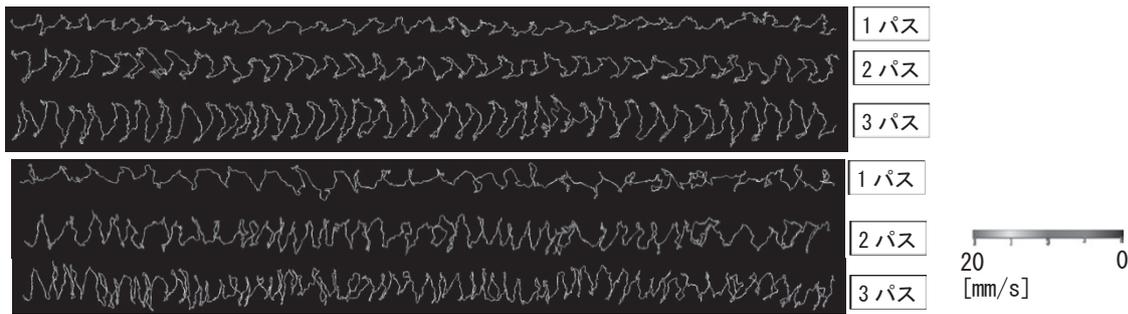
Improvement of welding technique to support manufacturing industry in region affected by disaster

加藤 大樹、佐々木 正司

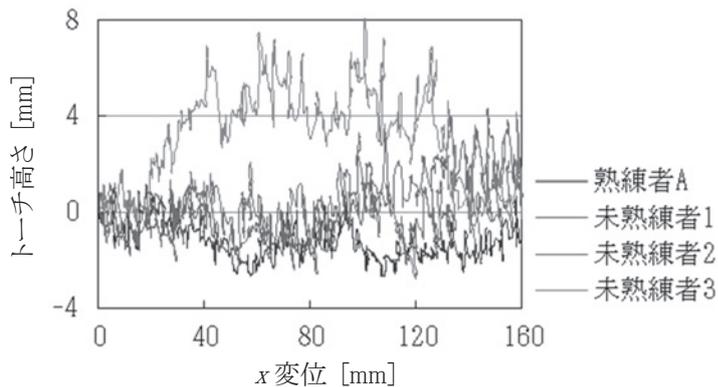
溶接は、作業者の技能レベルが加工品質に大きく影響する加工技術であり、優れた品質を得るためには作業者自身に高い技能が求められる。一方で、震災以降は復旧関連事業の増加などで需要があるにも関わらず、技術不足のため継続的な受注に結びつかない場合もあり、業界として未だに厳しい状況が続いている。

そこで本事業は、県内の金属、鉄工関連業界における溶接技術向上を促進し、早急な人材育成と技術支援を行うものである。

今年度は熟練者および経験の浅い未熟練者の溶接作業をモーションキャプチャシステムにより数値化および可視化し、比較することで、溶接トーチ高さのばらつきが技術レベルに影響を及ぼすことを明らかにした。また県内企業を対象として、非破壊検査技術や最新溶接機等の溶接技術に関する講習会および実習を延べ6回開催した。



トーチ先端の軌跡 (上：熟練者 A、下：未熟練者 3)



溶接トーチの高さ変化 (1 パス目)



半自動溶接実習